

第51期2010年度(平成22年度)修正事業計画

はじめに

2010年度事業計画、収支予算は2010年3月11日開催の理事・評議員会、通常総会で審議のうえ承認され、4月7日に外務省へ提出、受理されました。また2010年6月7日開催の理事・評議員会、通常総会で2009年度の事業報告、決算報告は審議のうえ承認されましたが、監事代表より2009年度の決算は収支のバランスを欠き、財政的な破綻をきたす恐れがあり早急な対策が必要である旨の発言があり、これを受けて会長は具体的な対応策を早急に検討着手する旨述べました。

2010年度事業計画に予定されている13件の国際ブックフェアの内7件のブックフェアはすでに実施済みあるいは準備完了したもので、残る6件につき共催事業契約を結んでいる国際交流基金と、その対応に付き6月15日に会議を持ちました。その結果在外公館との関係上、参加するブックフェアは6件に変更ありませんが、事業計画の全面的見直しを行い事業費の削減を図ることにいたしました。併せて、人件費、賃借料等の管理費全般に亘り収支予算の見直しを行い管理費の削減を図ります。今年度の内に収支バランスの改善をぜひとも図り、本会の事業の継続性を確保する条件を確実なものにしてゆきたいと考えております

会員の皆様方には、本会の厳しい現状に対するご理解と一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2010年7月20日

社団法人 出版文化国際交流会
会長 江草 忠敬

I. 「事業委員会、財政・公益法人制度改革対策委員会」の運営

2013年に本会創立60周年を迎えるにあたり、今期の役員改選を機に両委員会で中長期的な事業計画の策定に着手するとともに公益社団法人への移行認定、あるいは一般社団法人への移行認可を視野にいたした制度改革への対策を検討する。

II. 広報活動

1. 会報の発行(隔月刊)

B5判、発行：各号1,000部

*ホームページ上での発行(PDF版)に切替える(会報発行費¥500,000. ⇒¥215,000.)

2. 『世界の国際ブックフェア：現場からの報告No.18』の発行

B5判、発行：700部

本会が独立行政法人国際交流基金と共催事業として参加するODA対象国を中心とした各国の国際ブックフェアとその出版状況を、派遣専門家がまとめたリポート集。会員、関係機関へ配布。

*ホームページ上での報告に切替える(項目名：一般広報費)

3. *Practical Guide to Publishing in Japan 2010* の発行

英文版・日本出版界の実用ガイド

A5判変型、本文60頁、発行：6,000部

独立行政法人国際交流基金との共同出版

日本出版界の概要と輸出入統計、東京国際ブックフェアの実情、前年度のベストセラー図書の紹介等を含む最近の動向、翻訳出版権・図書の売り込みや購入等の商取引につながる基本情報、翻訳出版助成機関の紹介、主要な関連機関、団体の住所一覧等、外国の出版関係者に有用な情報を英文でコンパクトに紹介する冊子。

本会が参加する各国の国際ブックフェアで配布する(各200～500部)。在外公館、国際交流基金海外事務所での現地配布資料、来日外国出版人への啓蒙資料としても活用される。

4. 『フランクフルト・ブックフェア』(手引書)

B5判、発行：200部

世界最大のブックフェアを、その歴史から最新の開催状況までコンパクトにまとめた小冊子。昨年度から簡易製本の形にして、さらに活用しやすくなった。会員、関係出版社、関連企業、視察団参加者へ配布。

*PACE事務局内の簡易製本で部数も削減を検討

5. ホームページによる広報

ホームページ上で本会の活動を紹介。会員社ホームページへのリンク等の基本情報とともに、国際ブックフェア開催日一覧や派遣専門家の最新報告、さらに海外出版事情視察旅行企画の案内等を行う。今年度は内容充実を図る一環として、国際ブックフェアの来場者、あるいは日本文化に関心を寄せる一般市民への便宜を図るため、On-Line書店、英文版元へのリンク機能を加えていく。

III. 国際ブックフェアへの参加

1. 出展参加

(1) ODA対象国を中心とした国際ブックフェア(国際交流基金との共催事業)

国際ブックフェア名および会期については、後述の一覧表を参照。

共催機関である国際交流基金とも話し合い、参加国際ブックフェアの数は減らさないがPACE分担項目を見直す。特に下期参加図書展の専門家派遣5件を中止する。モスクワの第12回国際知的図書展non/fictionの専門家派遣については全額国際交流基金負担とする。(国際ブックフェア参加費：約¥1,500,000.-減)

- (2) 東京国際ブックフェア 2010
リトアニア、キューバに続き、本年度は在日アルゼンチン大使館の協力を得て、同国出版文化の紹介を本会のブースで行う。
- (3) ソウル国際ブックフェア 2010
昨年度の「日本年」を受け、本年度は通常の参加態勢となるが、本年が1910年の日本による韓国併合から100年目に当り、日韓関係史関連の図書も意識した展示を行っていきたい。来場者への図書販売については今年度も教保文庫の協力をいただく。国際交流基金と本会の共催ブース以外に単独出展の文藝春秋、ポプラ社、トーハン、シーエムシー出版、日本聖書協会のお世話をを行い、日本通りを形成する。
- (4) 第62回フランクフルト・ブックフェア（一部国際交流基金との共催事業）
 - 1) 昨年と同様6号館1階(Hall 6.0)に本会共同ブースを設置すると共に、各社単独ブースによる日本会場を構成する。
 - 2) 本会共同ブース(48㎡)には、国際交流基金と共同で総合的な「日本インフォメーション・センター」を設置する。
「日本インフォメーション・センター」(16㎡)以外の共同展示場を32㎡から半減の16㎡にすることを図書展事務局に交渉。またブース装飾についても特別なことをせず、スペース借料に含まれる既成の備品を使用する。(約¥1,400,000.-減)
 - 3) (社)自然科学書協会、(社)出版梓会、大学出版部協会、日本児童図書出版協会の協力参加による共同展示コーナーを設置する。
 - 4) 3号館コミック・センターへの日本の出版社の参加を呼びかける。
 - 5) ハッピーアワー・パーティーを企画する。
中止する。(¥450,000.-減)
 - 6) 昨年度の日独翻訳出版ワークショップに続き、本年度は日欧翻訳出版ワークショップをフェア会場内の公開スペースで開催する(在フランクフルト日本国総領事館、国際交流基金のケルン、ロンドン、パリ、ローマの各日本文化会館との共催)。
本会の共催を辞退する。(約¥350,000.-減)
 - 7) 日本会場における書籍の展示・紹介にとどまらず、日本の出版文化をより立体的に紹介するため、生け花を始めとする他の国際文化団体との連携強化を図る。
- (5) ライプチヒ国際ブックデザイン展
「第44回・造本コンクール」の受賞作品を、(社)日本書籍出版協会と共同出展する。
- (6) 日独交流150周年記念「日本の美しい本」展
ライプチヒGrassi美術館、在ドイツ日本国大使館、国際交流基金ケルン日本文化会館と共催する。

2. 国際ブックフェア関連事業

- (1) 「フランクフルト・ブックフェア世話人会」の運営
同ブックフェアへの日本の参加のあり方についての研究会
- (2) 国際ブックフェア・ワークショップの運営
- (3) 海外の出版事情視察団の編成
 - 1) 「フランクフルト・ブックフェアとイタリア出版事情視察コース」
 - 2) 「フランクフルト・ブックフェア：ドイツ統一20周年記念視察コース」
 - 3) 「フランクフルト・ブックフェア ビジネスコース」
 - 4) その他

IV. 海外における日本図書展の開催

現地協力機関との調整が整ったものから1～2件を実施する。

V. 「海外出版事情研究会」の開催

国際ブックフェアの派遣専門家による報告会を年に2回程度開催する。

VI. 関連活動

1. 納本制度の継続実施

ご協力いただいていない版元さんにはご協力依頼を改めてお願いする。
既にご協力いただいている版元さんには更に上積みのご協力をお願いする。

2. 国内研修旅行の実施

3. 「国際ブックフェア出展社の集い」の開催

4. 座談会の開催：「日本出版界の国際化について—実情と課題」（仮称）

5. その他必要な関連事業の実施

2010年度参加予定の「国際ブックフェア」

国際ブックフェア名	会期	備考
※ 1. 第36回ブエノスアイレス国際ブックフェア	4.22～5.10	
※ 2. 第17回ブダペスト国際ブックフェア	4.22～25	
※ 3. 第23回テヘラン国際ブックフェア	5.7～16	
※ 4. 第16回ソウル国際ブックフェア	5.12～16	事務局派遣
※ 5. 第16回ブックワールド・プラハ	5.13～16	派遣
※ 6. 第55回ワルシャワ国際ブックフェア	5.20～23	
7. 第17回東京国際ブックフェア	7.8～11	
※ 8. 第21回サンパウロ国際ブックフェア	8.12～22	
※ 9. 第62回フランクフルト・ブックフェア	10.6～10	事務局派遣 視察団
		ワークショップ・スピーカー派遣(中止)
※ 10. 第55回ベオグラード国際ブックフェア(セルビア)	10.25～31	
※ 11. 第21回ドーハ国際ブックフェア(カタール)	11.25～12.5	派遣(中止)
※ 12. 第12回ノン・フィクション国際ブックフェア(モスクワ)	12.1～5	派遣(中止)
		(専門家派遣は国際交流基金の全額負担に切替)
※ 13. 第17回出版と本の文化サロン カサブランカ	H23.2.11～20	派遣(中止)
※ 14. 第 回バルティック・ブックフェスティバル(ラトビア)	H23.2.～3.	派遣(中止)

第 51 期 2010 年度 (平成 22 年度) 修正収支予算

収支予算書

自 2010 年 4 月 1 日 至 2011 年 3 月 31 日

科目	(単位：円)		
	修正予算額	前年度予算額	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用収入	0	0	0
②入会金収入	0	200,000	- 200,000
③会費収入	20,000,000	22,000,000	- 2,000,000
特別会費収入	840,000	800,000	40,000
特別賦課会費収入	7,800,000	7,120,000	680,000
※会費収入合計	28,640,000	30,120,000	- 1,480,000
④事業収入			
フランクフルト・ブックフェア参加収入	16,500,000	22,000,000	- 5,500,000
国際交流基金預託金 (立替準備金)	14,300,000	19,500,000	- 5,200,000
国際ブックフェア参加収入	1,820,000	3,000,000	- 1,180,000
海外視察団参加事務手数料	450,000	1,000,000	- 550,000
※事業収入合計	33,070,000	45,500,000	- 12,430,000
⑤補助金等収入			
受取利息	50,000	100,000	- 50,000
雑収入	130,000	200,000	- 70,000
※補助金等収入計	180,000	300,000	- 120,000
※※※事業活動収入計	61,890,000	75,920,000	- 14,030,000
2. 事業活動支出			
①事業費支出			
フランクフルト・ブックフェア参加費	16,500,000	20,000,000	- 3,500,000
目録発行費	185,000	500,000	- 315,000
国際交流基金預託金 (立替準備金)	14,300,000	19,500,000	- 5,200,000
ODA ブックフェア参加負担金	150,000	100,000	50,000
国際ブックフェア参加費	4,500,000	2,500,000	2,000,000
会報発行費	215,000	480,000	- 265,000
東京国際ブックフェア参加費	300,000	500,000	- 200,000
調査費	370,000	850,000	- 480,000
渉外費	210,000	450,000	- 240,000
※事業費支出計	36,730,000	44,880,000	- 8,150,000
②管理費支出			
給与手当	15,850,000	20,000,000	- 4,150,000
退職金	0	0	0
福利厚生費	2,796,000	4,000,000	- 1,240,000

旅費交通費	900,000	500,000	400,000
通信運搬費	800,000	1,000,000	－ 200,000
印刷費	175,000	190,000	－ 15,000
会議費	200,000	1,100,000	－ 900,000
一般広告費	0	400,000	－ 400,000
慶弔費	10,000	50,000	－ 40,000
賃借料	1,884,000	2,130,000	－ 246,000
水道光熱費	200,000	200,000	0
租税公課	70,000	100,000	－ 30,000
保険料	20,000	20,000	0
消耗品費	300,000	300,000	0
雑費	400,000	700,000	－ 300,000
※管理費合計	23,605,000	30,690,000	－ 7,085,000
※※事業活動支出計	60,335,000	75,570,000	－ 15,235,000
※※事業活動収支差額	1,555,000	350,000	1,205,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
①固定資産売却収入	0	0	0
②特定資産取崩収入			
退職給与引当預金取崩収入	0	0	0
国際ブックフェア参加(積立)準備金取崩収入	0	0	0
※投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
①固定資産取得支出	0	0	0
②特定資産取得支出			
退職給与引当金支出	0	100,000	－ 100,000
創立60周年記念事業(積立)準備金支出	0	50,000	－ 50,000
国際ブックフェア参加(積立)準備金支出	0	100,000	－ 100,000
※投資活動支出計	0	250,000	－ 250,000
※※投資活動収支差額	0	－ 250,000	250,000
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
①借入金収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
①借入金返済支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	0	100,000	－ 100,000
当期収支差額	1,555,000	0	1,555,000
前期繰越収支差額	12,954,932	25,524,020	－ 12,569,088
次期繰越収支差額	14,509,932	25,524,020	－ 11,014,088

(注) 1 借入金限度額 0円

2 債務負担額 0円